(明治四十一年十二月三十日第三種郵便物認可)

京城新報

人の一生は重き荷を負ふて遠き道を行くが如し急ぐ可らず

(日刊) 日曜及祭日休刊 明治四十二年十一月十七日 (水曜日) 第二百六十六號 (一)

明治四十一年 紀元二千五百六十九年

本紙 (一枚金二錢▲一ケ月前金壱圓▲三ケ月前金壱圓▲六ケ月前金貳圓▲郵税一ケ月十三錢)
定價 (大祭日及毎月曜日は休刊日)
廣告料金 (一字十七字詰一行金七十五錢▲五號活字十七字詰一行一回金五十錢▲報知欄特別廣告五號活字十七字詰一行金一圓)

發行兼編輯人 高木久馬太郎
印刷人 松久神一郎
京城西署西小門通(電話六六三)

發行所 京城新報社

甘茶澁茶

▲表情の分量

人が表情すると云ふことは至つて六ケしいことで又た至つて必要な事柄であるが、人が怒つてよくイヤがられるのは其の怒り方が惡いからであつて、人が泣いたとてよく笑はれることがあるのは其の泣き時が惡いからである泣くべからざる時に泣いたり怒るべからざる事に怒つたりするので人々にも笑はれイヤがられるのである、人苟も平ならざるものがある時には形に外に現はるゝのが本當の事にて無理にも掩はんとするのは不自然なるのみならず這は一の罪惡と云ふべきものである、何となれば表情をいなひと云ふのは己れを欺き人をも欺き甚しては延て世をも欺かんとする行爲であるからである、水の平ならずして鳴るのと同じく其の分量其の深淺其の場合に從て正比例に其の燃きを立つるは甚だ無邪氣で甚だ大切天眞爛熳なるのみならず又た甚だ大切の事である、唯之を表はすに當て禮と義とを以て行ひ制するにあらざれば動物の驚骨の表情と撰ぶなきに至ることには注意を拂はねばならぬ、是れ表情の六ケしいと云ふ所なのである。

▲敷々すれば疎まる

天然羅は至極甘いものではあるが立て續けに頻張れば此の位イヤなものはあるまい、食事にかけては人の親しく知る所でメッタに开麻事はせないが世人が天然羅の立て續けを社交の上に屢々行ふのは不思議の次第である、好きと嫌いとは元より人々によつて異つては居るけれども、マズイものでも甘いものゝ後には甘く感せらるゝことのあるのに心するのは料理人の苦心のある所と云ふ事には氣が付きながら、之を直に社交の上に行はぬとは何たる事ぞや、世に應用する事の多き中に此の位直に應用の利くものはあるまじ、此の邊の消息こそ沼恵すれば存外社交は易いものなり、人に數々すれば終に疎まると云ふ言味ふべきものではないか。

▲娼婦の眞似

口には頻りに平和々々と唱へて居ながらソッと覗けば後ろには劍を匿くして居るのが今日の國と國との間柄である。彼れも此れも軍備をさゝ怠りないのは所謂武裝的平和とでも云ふのであらんが世の中は總て此れ式にて渡らるゝものであるやら、心にはどんな企みを懷いて居ても表面さへ良ければ其れで行くなら世は存外馬鹿なものなりだが事實は其れでよい樣示して居るのは、恰も娼婦が惚れて居ますとじやれるにも似て噴飯に堪へぬが、是れも表面だけなりとも良いなれば如かぬと云ふ流義なるべし。

韓國穢多種族 (三)

今村警視の談

白丁の社會より蒙りし迫害

前章に置いて述べた如く、白丁の社會的地位は最下等で、誰一人齒する者もない、白丁とさへ云へば唾も吐き懸けない扱かひぶり、無論兵隊にもなれねば官吏になる事もできぬ、其代り租稅は一切免除となつて、早い話が人間らしい待遇は爪の垢程もしてくれない、今細目に亘つて之を說かう。

△衣服の制限　衣服は一切絹布類の着用を許されない、又毛の帽子も冠る事ができぬ、冠は平壤子又は平陽子と稱する俗にベランギーと云ふ不格好なもの丈け許されて居るが扨て冠の紐には布片は用ひられない、穢か紙捻で結ばねばならぬ、まだそればかりではない葬式の時分でも喪服喪笠は着けられない、唯喪の頭巾丈けなら冠る事ができる、如何なる場合と雖、女性が箸を用ゆる事なぞは許されない。尙この他に網巾を許されて居るが岩巾も頭巾は禁じられて居る。

△体刑　白丁が罪に坐した時は臺を用ゐず地上へ倒して置いて笞刑を加へる普通の犯人ならば必らず臺の上へ据へて叩くので、臺を撤して直接地上に坐らせるのは再犯以上の程重い犯人である。

△葬式　葬式の場合に籠に乘る事ができぬ、大抵朝鮮の寒村僻地には一村共有の葬式籠がある、平常から賴母子講のやうなものを作つて準備して置くので遂近頃の事白丁の一人が死亡したので右の籠を借してくれろと申込んだ、當民達は火のやうに怒つて之を拒んだところ白丁も四民平等の御發令のありたる今日何もそう水臭い郡を云ふにも及ぶまいと敎固さ込んで郡守に訴へ出たそこで郡守から當民へ懲ゞ論したけれど何時かな頑として之を聞入れず、已むなく白丁は獨力で籠を作つて葬送を濟ませた相である。

俳句

○四樂君の良緣を得られたるを祝して

ふらひ契り濃かき慧恵の床　六坊
贈られし菊に青蘆の狹さかな　かつら
彌神にひとつ添ひけり鉢の菊　秋花
田鼠化す日和なる可し菊盛る　龜甲
四海波靜かやきくの朝ばらけ　玉糸女
樂しさの三つを殘して菊の酒　蘭坊
君が代や菊の雪に搖る日章旗　月哉
新妻のほろ醉ふ小春日和かな　桐雨
媒禮を千代に納めてきくの酒　榮菊
菊の露との花嫁にそしがばや　酒泉
君訪ふて戻れば袖に菊かほる　むら

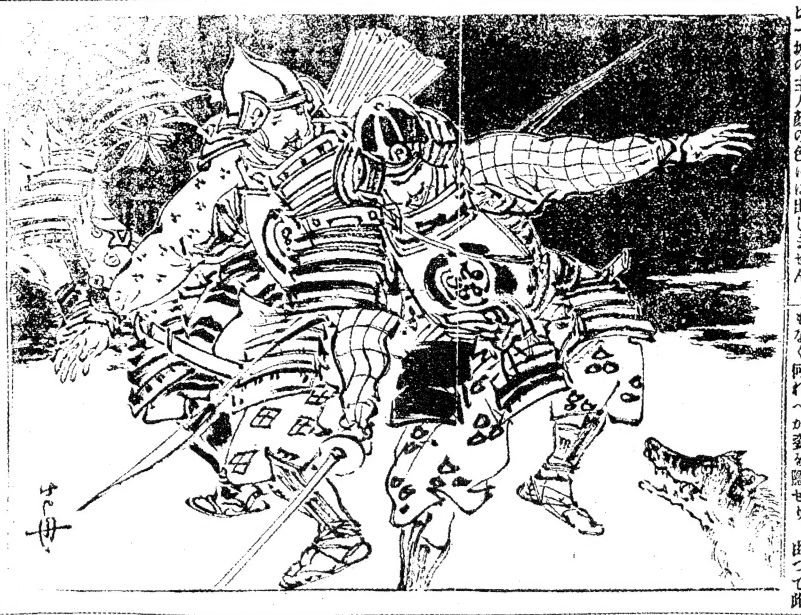
○寄松祝　貞家

和歌松の根ざしやいと〻固からん契り濃かく生ふる姫蔦

第三十三席

伯山改　神田松鯉口演

保元元年七月廿三日の夜の四つ過ぎでございます、俄かにワーッといふ鬨の聲、とは唯事ならず、と忠國は唯一人で臥床を出まして物見へ登らうとした時に、駈付けて參りましたのが腹臣の吉田兵衛、高間四郎の二人。忠「コレ〳〵兵衛……」兵「ハッ君は此所に居らせられましたか」忠「ウム、那の物音は何んぢや」兵「されば申さ事出來、都に於ては新院叛逆を起し王ひ、本月十一日の朝まだき合戰始まり其日の内に新院方は敗軍遊ばしました然るに下野守殿義朝公は內裏へ召され判官爲義殿は六人の子息を召連れ玉ひて、院の御味方に加はられ、軍破れて後は、親子兄弟苦チリ〳〵バラ〳〵に御用意召されい」と二人は飛ぶが如くに退きました、此時忠國は白縫を召



「左様か、イヤ折も惡く鳥羽上皇の崩御の一族郎黨を召取つて差出せとの仰せなり、私に干戈を動かす者ならず、旗を伏せ陣門を開いて降參なさば好し、もなき時に於ては、塵に致すに由つて覺悟をせよ」と大音揚げた高間の四郎カラ〳〵と笑つて

四「九州九个國を呑して其名海內に現われたる鎭西子ある折しもハヤ忽ち關の聲四方に起り大鼓鐘の音響し、吉田高間は是れを聞くと雖も別段驚く景色なく「されば敵も間近へ押寄せたりと聲ゐたり、某等先づ罷出でゝ防ぎ申さん、御心帮に御用意召されい」と二人は飛ぶが如くに退きました、此時忠國は白縫を召

(廣告)

十五歲以上廿歲以下のボーイ數名入用
京城ホテル

龍山元町二丁目
佐藤病院
電話一〇三番

入院隨意
京城壽町三丁目(電話三七八番)
中島醫院
院主醫學得業士
中島貞信

南大門停車場內喫茶店
京義線直行列車內食堂

西洋料理　一皿　二十錢
コーヒー茶　一杯　五錢
チートース　一人前　十二錢
洋酒　一杯　十五錢
客室內に食卓を設け洋食及び辨當を調進し尙酒、烟草、菓子、果物等販賣致候

右十一月一日より開業致候に付舊に倍し御愛顧御引立の程奉仰候猶喫茶店には清潔なる兩便所の設備も有之候

京城南山町三丁目
京城ホテル
電電一二三、電四九二

京城
廣江商會
電話五七六番

伊藤公爵家寫眞係小川一眞撮影
故伊藤公爵葬儀係認可
伊藤公國葬寫眞帖
定價 全一冊金壹圓五十錢 郵送料八錢

內容要目
故公最近大肖像 原カーボン紙刷
陸光景數圖○同沿道繼踏光景數圖○葬儀
粧數圖○同沿道繼踏光景數圖○
道光景十數圖○大山東鄕諸元帥棺側徒步光景
○國葬式場全景○元老大臣各國大使公使未亡人遺族其他文武百官參拜光景十數圖○大井村埋葬光景數圖等大判約五十頁

蓋し伊藤家累代の記念の爲に撮影を命ぜられたるものなるも公の如きは一家の私すべきに非ず國民の以て記念とせざるからざるもの強て請て江湖に頒つ苟も國民たるもの速かに一本を具へて故偉人を思ばざるべけんや

發行所 東京新橋日吉町
韓國特約大販賣 小川寫眞製判所
京城明治町一ノ四九
前島商店
追而本帖は故偉人を思はれて非常に申込者多く來る二十日より御申込順に依り配付可致候間此際至急御申込の程奉希望候敬具

京城新報

天理不知の罪

暗殺の流行

近頃の外電は、印度總督ミント侯が、侯の夫人と供にアメッドアバットを通行する際、兇漢の投ずる所となり二個の爆裂彈を浴びしも、幸にして破裂するに至らず僅に無事なるを得たりと報ず。曩には我前統監伊藤公の暗殺資に於ける變事あり、今復た此の報に接す余輩は近時漸く各所に政治的色彩を帶べる暗殺の流行し來れるにはあらざるかを疑ふ。世はナカ〳〵物騒千萬ならずや。

世に盗賊なるものあり、盗びに亦た三分の理ありと言へば、此等政治的色彩を有せる暗殺者の主張にも亦たソレ相當の理窟あるべしとは思へども、此等が常に小數不平者の代表者の頑迷無智にして天理を辨へざるものゝ手に藉て演出せらるゝを見る毎に、未だ曾て喟然として憫惻の念に打たれずんばあらず印度が英國の支配下に立ち、朝鮮が日本の保護國となるに至りたる所以のものは、抑々何が故ぞ。叛亂相踵き賊盗徘徊し、收斂苛酷にして民に退産なく爲政者孤り傲奢を極めて衆が枕を高うするゝ能はざりしは、兩國往時の狀態ならずや。多數の苦楚を犧牲に供して小數者の權威を遂うしたるは、兩國昔時の狀態ならずや。此の如きの政治は是れ野蠻の往時の爲政家の夢になれるものにして、横暴も亦た甚だしく、遂に多數不幸者の苦痛を塗炭の外に救はんと欲する英國日本の爲めに或は統治せられ或は保護せらるゝに至りしものは、實に天理の然らしめし所にして、決して强者の弱者を食ひしには非ず。見て現時印度及朝鮮の人民の多數は、暴悍なる爲政者の壓迫を免れ苛酷なる舊俗更の誅求を脱し心靜に生を養ひ愛然として產を保つを得るに非ずや。最大多數者の最大幸福を增進せしむるを以て主眼とするは文明政治の根本義にして、天理の方に使命する所の者也英國の印度に於ける政治にして此根本義に反し、日本の韓國に於る政治にして此根本義に反したらんには印度人や韓人やが白刃爆彈を假らずとも天理は決して其れが存立を聽すべくもあらず偶々小數不平者の己れが私慾を遂うせんが爲めに、目の上の瘤として多數人子の代表者たる爲政家を斃すが如きは恐も亦た甚だしく、昔の專制者を斃せば施政の後ち變りしを夢見るに驚由せんも、今日の政治が常に多數人の意向に由て爲さるゝものなるを知らば、百の爲政者を斃すも亦た益なきことも見易きの道理なるべきや。而して文明の爲政は最大多數の最大幸福を增進せしむるを以て主眼とするものなるを知らば、無暗に己れの不平を漏し、私慾を遂うせんが爲めに爲政家を斃すが如きは、曾て爲政の愚なるのみならず、延ては却て其の目的とする所の自治の希望をば空しきに歸せしむる所以たるをも知らん。心を靜め實を養ひ時の至らんを是れ待つべきは、汝の務めにあらずや。印度民はさて措き朝鮮の民衆の心を注ぐべきは方に此にあらずや。

東京電報

▲兩陛下の離宮行幸 天皇皇后兩陛下には十九日午後二時御出門赤坂離宮へ行幸親菊御宴催させらるゝ旨仰出さる（十六日發着）

▲靈南坂官邸の引渡 御思召を以て伊藤公の爲め特に築造せられたる靈南坂官邸は一先づ宮內省に引渡すことゝなれり（同上）

▲豊島少將の差遣 陸軍重砲兵監豊島陽藏同監部員砲兵少佐中島榮吉の兩氏は韓國へ差遣せらるゝ伏見大將宮殿下には十八日午後二時半新橋御發車途中神戸岡山門司各御一泊廿四日佐世保着廿六日旅順着の御豫定なり（同上）

▲露國移民の奬勵 本年度に於て大に露國民を極東各地に移植せしめんとする計畫は農商務省の決議を經たるが同國官憲は政治上軍事上の理由より極東及び中央亞細亞に於ける露國移民を是非必要とするの意見なるより極力保護を加ふる等なりと（同上）

▲伏見大將宮旅程 來廿八日旅順白玉山表忠塔除幕式に陸軍を代表して御參列あらせらるゝ伏見大將宮殿下には十八日午後二時半新橋御發車途中神戸岡山門司各御一泊廿四日佐世保着廿六日旅順着の御豫定なり（同上）

▲兇漢の豫審終結 兇行者安重根の豫審終結し有罪と決したるを以て愈公判に移されたるが運累者は八名と決したり（十七日）

▲樞相以下の親任 本日午前十時宮中に於て左の如く親任式ありたり（十七日）

公爵 山縣有朋
任樞密院議長
男爵 牧野伸顯
任樞密顧問官
子爵 齋藤大佐の任地 前間

▲國債報償金處理會 國債報償金處理會にては久しく紛擾を敢て由に元來元帥長の伊藤侯は國債報償金處理會等に於ては[illegible]に之が解決を見ず何人も之が眞相を知らん事に腐心せるが明十八日午前十時[illegible]

▲砂糖疑獄事件 砂糖[illegible]重大詐欺事件は最近調査の結果大藏省內の高等官に連累者あるを聞き前大藏書記官イーマンゼーゲー氏も嫌疑者の一人なり（十七日東京經由）

▲露國議會の議題 露國第三議會は開會中なるが露土密約即ち治外法權撤去、アナドリア鐵道敷設權放棄クリー島所屬承認の代償として得たるダーダネルス海峽通航權獲得に關する問題は未だ確實ならざるに非ざるもの多く又同海峽通過權が獨り露國に限れるや否やに關しては列國の大に注意する所なり（同）

▲英獨條約締結 英獨通商協約は多分締結せらるべしと報ぜり（十七日東京經由）

▲木野大使の歸程 駐露日本大使木野男爵は西比利亞經由歸朝の途に就きたるが露國外務省は日露關係に紛糾發生せりとの說を極力否定し獨乙皇帝は獨清國公使を十五日ベルリンに催すべき海軍官舞式及新建造艦觀艦式に招待すと（同上）

北京電報

▲清皇帝の御健康 清國皇帝は皇太后と御同寢親しく御撫育を受けさせられ至極健全に御成長の由拜聞す（十七日發）

▲欒州炭坑採掘權 英國公使は開平炭坑の英國商人の欒州炭坑の採掘權を要求したるが當局は日露關係員は審議の上北京外務部に對し同炭坑を他國に讓與するとの不可なる所以を極力抗爭するに決せりと（同）

倫敦電報

航路補助は誤報

仁川を起點とせる西海岸航路補助請願の件は信夫仁川理事官の發議に依り合名會社を設立せしめ既に解決したる旨既報せしが農商工部當局者の談によれば右は全然無根の誤報にして過日信夫理事官出頭し至急解決せられたき旨交渉ありたるも當局者の希望する條件を具備せざるを以て折返し協議を悉くし出願當事者間の妥協不成立ならざるに何を以てか解決の運びを見る能はず殊に補助金下附の如きは同部のみにて專行し得らるる可きものに非ず乃ち度支部との合議を要するを以て總會部議其必要を認め補助を決定するも尙は多少の期間なかる可からずと然れば該航路補助金下附の請願は乃ち未知數の運命にある次第なるが探聞する處によれば信[illegible]

欧州電報

▲疑獄事件 砂糖[illegible]

官煙と日韓關稅

滿洲及び韓國に於ける我官營烟草は專賣局に於て殆んど利益なき迄に原價を引下げ居るに拘はらず之れが販路日に月に縮少せられ之れに反して米國烟草トラストが製造上我に比して頗る不利の地に立てるにも拘はらず却つて我製品を驅逐しつつあるは甚だ憤慨に堪へざる次第なるが由來韓國に對しては我は實に多大の犧牲を供し今日にては殆朝は獨立の一帝國なれども其實は恰も我附庸の國に異ならず列國も亦爾く認め韓國に對する我施設に關しては一言可否を論ずるものなく全然我為すが儘に放任して顧みざるにあらずや尤も關稅問題は條約上實に重大の問題にして若し我煙草に對し關稅を免除し若くは減せんか列國は必ず條約上の權利を主張して我に均霑せんことを要求し茲に外交上の一問題を生ずべしと雖も去二十六年の條約改正に臨み我當局は今日の場合を豫想して獨逸に對し特に某國（條約には韓國と明記しあらざれども事實韓國たることは疑を挾むの余地なし）と條約を締結する場合に於ける我權利を保留しあるが故現任當局にして韓國と別約を締結するに於ては彼關稅左右し以て能く我權利を保護するを得べきにあらずやと論ずるものあり

今後の對韓方針

對韓方針に關し內閣側にては或は穩極方針に出づべしと云ひ或は對韓方針は既に變更すべく決し居たるも伊藤公の兇變によりて却て障碍を來したるやに傳ふれど責任ある人の語れる所に依れば伊藤公が我保護下に在る韓國人の爲め悲憤の最後を遂げたるは畢竟宗主國として我國の威信が未だ彼保護國民の全体に及ばざりし結果にして寧ろ統監

鐵道敷地の買占

京仁某々の投機者等は湖南鐵道停車場用敷地に供給の目的を以て某地方の地所買入に着手したり而して該投機者等の使用する線路概略圖は某官憲より與へられたるものゝ由なり因に地所買入資金を大坂方面より供給さるゝと投機者等の聲言するところなれども所は全く跡方もなき事にして投機者相應の流言なるべしと云ふ

●豊作と最近の米況 本月の價格は十二圓にして先月中に比べ五十錢の下落をなせしが原因は日韓共に本年は豊作なる爲めなり最近に歸朝したる有力なる某米問屋の談る所によれば日本に於ては近來布哇其他外國に多く輸出され居れば從來日本の豊作によりハケ場に悲觀せし朝鮮米も之れに就て生ずる陷欠を補充する可く前途に光明を認むるに至れり、因みに朝鮮米は米質も日米と異なりなく價格は廉なるを以て外國へ輸出さる可き筈なれど何分乾燥法の不完全なる爲め途中にて變質し外國には不向なり然して相場は今後如何程下落或は上騰するや目下氣迷ひ中なれば從つて京城方面に於ける重なる賣買は昨今絶無の有樣なり

●市民會と民團議員 京城居留民團民長後任問題に關し市民代表者せる民團議員の体度が不統一且誠實を缺ける事居留民の激昂する所となり去る十五日市民の重立つ者五十余名商業會議所樓上に會し遂に決議を爲したる上實行委員を選定したる事は昨紙報道したる所なるが實行委員田村增田、古城、小川、高木の五氏は昨十六日彼の決議文を携帶して和田民會議長を訪問したるに同氏は生憎旅行不在中なりしを以て取敢へず居民團議員に對して右決議文を廻付したりと云ふ

●勞働組紛擾の其後 仁川應信團と韓勞働組との衝突に其後鎭停纏り此外に大韓勞働組なるもの現はれ三者鼎立の狀態にて至極春寶に

●木浦地方綿花豊作 本年に於ける綿作は氣候順を得たる爲め近年稀なる豊作にして木浦地方の如き殊に良好にて本年に至り既に出荷し居たるもの一萬二千五百個に達し例年の出荷數と略ぼ同樣なるが近く尙ほ一萬八千個位びの出荷にあるを見込なり是れ全く價格騰貴によれる影響なりと云ふ

●仁川の新道路開鑿 仁川花町より道病院横を經京城通りに出で其より根岐驛に達する新道路は今回內部の手にて開鑿する由、內部にて仁川民役所に交渉入札に附せられたり

●地方德行者に褒狀 內部大臣は地方德行者に褒狀を與へ來り此度大臣は韓勞働組なるもの其結果良好なる成績を示せるを以て今後益々之等善行者に對しては褒

韓國

今後の人蔘產出額

國債報償金處理會にては久しく紛擾を敢て由に元來元帥長の伊藤侯は國債報償金處理會等に於ては[illegible]に之が解決を見ず何人も之が眞相を知らん事に腐心せるが明十八日午前十時[illegible]

▲國債報償金處理會 國債報償金處理會にては久しく紛擾を敢て由に元來元帥長の伊藤侯は國債報償金處理會等に於ては[illegible]に之が解決を見ず何人も之が眞相を知らん事に腐心せるが明十八日午前十時[illegible]

●各道廳務規定制定 各道廳務規定を作成事務の敏活を計る[illegible]

●天無豫報（自十七日午後六時）（至十八日午後六時） 最低溫度 五、三八 最高溫度 四七、七

●今後の人蔘產出額

●北西の風晴

（第三種郵便物認可）　明治四十二年十一月十七日

水源地を見る記

（三）　紫子

居住民諸君にも更ためて申上げる、諸君が現も飲用せられつゝある水道水貯水場は水口門外火葬場前四五百米突の近きにある、如何に夫れでも其の保護方法が餘りに侮どられつゝあると云ふ事が事實であると、現に自分等は磊々として露出せる花崗岩角を踏みて此所を訪なへりし際に證して。纏内を覗き見たるも現狀を說明し呉へ人らしきも見ねば車夫をして先發諸子の行動を聞かしめたるも唯「日本人不在」とのみ答へて要領を得ずとか併し何れにしても水源地迄行けば落合ふことゝなるべしと露命をかけて車夫共四人関々と凝議に時を費す早くせよと命ずれば此所から往けるか何うか判らぬ今向ふから來る老人に聞いて見て行き動くことに決つたと云ふ、心細くならざるを得ぬがモウ斯うなつたら勝手に爲ろ、生かさうと殺さうと、と三度觀念の眼を閉ぢかけると流石に平然たりし日城子も、聊か不安を感じたと見へて「何うも不都合ですなア」と來た「不都合と云へば不都合ですが、マア詮方がないと諦めませうよ」と無理に觀念の眼を閉ぢさせ樣とするけれども、城子は觀念の眼を只管に睜つて居る其の間に鐵筋も分明したと見へて「此方へ來なさい」と先きに立てドン〳〵以前の岩角を拾つて折角擔ぎ上げた車を擔ぎ下す成行任せの僕は獸つて跟いて降るが、一生懸命觀念の眼を睜つて降る日城子は「何うも不都合ですなア」を繰返しつゝ降る。

隴圃の間を横切て鐵島への本道に出づ出來たての豆餅を見る如、西四でバク、バク、跡押す車夫の鼻風にも骨の折れることが知れる、成程贅深に付た跡押でないと分明て見れば勿体なくはなし馳せること少時にして新村に入る、日城子余を顧みて曰く「大丈夫でしような」僕曰く「何がです」子曰く「道ですよ」、日城子は未だ觀念の眼を睜つて居るのである「大丈夫でしようとも、若し間違つたら又引つ返すと極めましよう」子曰く「弱つたなア」

弱つたなと觀念と行くと秋の蟹、なんぞと詰らぬことを思ひて、獨り車上に笑へるが可笑しくて道行く人の訝りなるが、内に日本人の顏もチラホラ見ゆるが心强く思ひるゝのであつた。

不圖眼を擦ぐれば秋晴れの日に照り映へ淺江の流れに近く大煙筒の聳々と居住民諸君にも更ためて申上げる、諸君が現も飲用せられつゝある水道水貯水場は水口門外火葬場前四五百米突の近きにある、如何に夫れでも其の保護方法が餘りに侮どられつゝあると云ふ事が事實であると、現に自分等は磊々として露出せる花崗岩角を踏みて此所を訪なへりし際に證して。纏内を覗き見たるも現狀を說明し呉へ人らしきも見ねば車夫をして先發諸子の行動を聞かしめたるも唯「日本人不在」とのみ答へて要領を得ずとか併し何れにしても水源地迄行けば落合ふことゝなるべしと露命をかけて車夫共四人関々と凝議に時を費す早くせよと命ずれば此所から往けるか何うか判らぬ今向ふから來る老人に聞いて見て行き動くことに決つたと云ふ、心細くならざるを得ぬがモウ斯うなつたら勝手に爲ろ、生かさうと殺さうと、と三度觀念の眼を閉ぢかけると流石に平然たりし日城子も、聊か不安を感じたと見へて「何うも不都合ですなア」と來た「不都合と云へば不都合ですが、マア詮方がないと諦めませうよ」と無理に觀念の眼を閉ぢさせ樣とするけれども、城子は觀念の眼を只管に睜つて居る其の間に鐵筋も分明したと見へて「此方へ來なさい」と先きに立てドン〳〵以前の岩角を拾つて折角擔ぎ上げた車を擔ぎ下す成行任せの僕は獸つて跟いて降るが、一生懸命觀念の眼を睜つて降る日城子は「何うも不都合ですなア」を繰返しつゝ降る。

隴圃の間を横切て鐵島への本道に出づ出來たての豆餅を見る如、西四でバク、バク、跡押す車夫の鼻風にも骨の折れることが知れる、成程贅深に付た跡押でないと分明て見れば勿体なくはなし馳せること少時にして新村に入る、日城子余を顧みて曰く「大丈夫でしような」僕曰く「何がです」子曰く「道ですよ」、日城子は未だ觀念の眼を睜つて居るのである「大丈夫でしようとも、若し間違つたら又引つ返すと極めましよう」子曰く「弱つたなア」

弱つたなと觀念と行くと秋の蟹、なんぞと詰らぬことを思ひて、獨り車上に笑へるが可笑しくて道行く人の訝りなるが、内に日本人の顏もチラホラ見ゆるが心强く思ひるゝのであつた。

不圖眼を擦ぐれば秋晴れの日に照り映へ淺江の流れに近く大煙筒の聳々と居住民諸君にも更ためて申上げる、諸君が現も飲用せられつゝある水道水貯水場は水口門外火葬場前四五百米突の近きにある、如何に夫れでも其の保護方法が餘りに侮どられつゝあると云ふ事が事實であると、現に自分等は磊々として露出せる花崗岩角を踏みて此所を訪なへりし際に證して。纏内を覗き見たるも現狀を說明し呉へ人らしきも見ねば車夫をして先發諸子の行動を聞かしめたるも唯「日本人不在」とのみ答へて要領を得ずとか併し何れにしても水源地迄行けば落合ふことゝなるべしと露命をかけて車夫共四人関々と凝議に時を費す早くせよと命ずれば此所から往けるか何うか判らぬ今向ふから來る老人に聞いて見て行き動くことに決つたと云ふ、心細くならざるを得ぬがモウ斯うなつたら勝手に爲ろ、生かさうと殺さうと、と三度觀念の眼を閉ぢかけると流石に平然たりし日城子も、聊か不安を感じたと見へて「何うも不都合ですなア」と來た「不都合と云へば不都合ですが、マア詮方がないと諦めませうよ」と無理に觀念の眼を閉ぢさせ樣とするけれども、城子は觀念の眼を只管に睜つて居る其の間に鐵筋も分明したと見へて「此方へ來なさい」と先きに立てドン〳〵以前の岩角を拾つて折角擔ぎ上げた車を擔ぎ下す成行任せの僕は獸つて跟いて降るが、一生懸命觀念の眼を睜つて降る日城子は「何うも不都合ですなア」を繰返しつゝ降る。

隴圃の間を横切て鐵島への本道に出づ出來たての豆餅を見る如、西四でバク、バク、跡押す車夫の鼻風にも骨の折れることが知れる、成程贅深に付た跡押でないと分明て見れば勿体なくはなし馳せること少時にして新村に入る、日城子余を顧みて曰く「大丈夫でしような」僕曰く「何がです」子曰く「道ですよ」、日城子は未だ觀念の眼を睜つて居るのである「大丈夫でしようとも、若し間違つたら又引つ返すと極めましよう」子曰く「弱つたなア」

弱つたなと觀念と行くと秋の蟹、なんぞと詰らぬことを思ひて、獨り車上に笑へるが可笑しくて道行く人の訝りなるが、内に日本人の顏もチラホラ見ゆるが心强く思ひるゝのであつた。

不圖眼を擦ぐれば秋晴れの日に照り映へ

無害ノ煙草ヲ御愛顧賜ハンマス
EDP金口莨
直輸入商 卸賣 小賣 日希商會
主任メニヤス
電話二二一番

英國船に救助さる

▲漂流中沖繩縣人

沖繩縣島尻郡仲里村住の島カマル（四）と云ふは本月三日五名の琉球人と共に自己の漁船に薪を滿載して那覇に向け航海中大暴風に遭遇して帆柱は折れ舵は損じて進退の自由を失ひ見る〳〵彭湃たる海洋に流されて西にさまよい東に漂ひ木葉の如き捨小舟は哀れや浪のまに〳〵搖られて何れの涯に漂着するやへ定かならぬこと剩へ喰ふに米なく飲料品も缺乏して只だ此上は運を天に委ねて死を待つの外なかりける程に天の與へか約九日間を海上に漂ひ居るに同月十二日臺灣の附近にて黑煙を吹きつゝ進航する一汽船を發見せしにそ聲を限りに救を呼びたるに又同汽船よりは直に短艇を下して救助に赴かんとしたるも何分荒浪の爲め其意を得ざるより如何はせんとためらひてあるを見たる前記の琉球人六名は今は之れまでなりと數丁の間を泳ぎて一生懸命に船体にかじり附きて漸く九死に一生を得たるが之れ又英國汽船のインドラ號と云へるものにて今しも仁川に向ひて航海中の船なりしかば兎に角同船の手厚き介抱を受けて一昨十六日仁川に入港し其旨仁川署に届出でしかば取敢へず同船より遭難者の身柄を引受け仁川在留琉球人を呼び出して通譯となし事實を取調べたる全く前記の次第と判明したるにそ直に原籍地に宛て報告して照會するとともに遭難者一同を民團役所に引渡し目下仁川病院分院に收容して手當を加へ居れるが初めの仁川に上陸したる際遭難者は眼を抜くして死土地に同れなる日本の何處なるよとの問を發せしにそ此樣に鮮なりて教へしかど現聲に合點をさるものゝ如くに視右所すに疑れにも滑稽なりしと云ふ

俳優が恐て置かれます

▲妖術深い會計課員

原籍は福岡縣柳川町の生れにて何のよしの（三）と云ふが櫻井町〇〇番地の何の某と云ふ虎嘯の悪側なる朝鮮家屋に猫一匹に下女一人た定せりの見越しの松こうなれ小診鞠して小奇麗に乙な濟て錢座ますに要こそあれと物好き記者が探つて見たるに驚き桃の木山椒の木に雀が接つてチウ〳〵と囀り交はす所を聞けば元來よしのは車情あり二月中五個年の年季にて廣島市下柳町の貸座敷賣樓といふに身を沈め娼妓家業中其翌四十年八月逃亡して本署に檢束し即部警部取調べたに一時の出來心の蓋みれば厚く將來を戒めて抱主に引渡したり

駅落娼妓押らる

大阪府西成郡鷺洲村の生れ杉本スエ（七）は去る三十九年十二月中五個年の年季にて廣島市下柳町の貸座敷賣樓といふに身を沈め娼妓家業中其翌四十年八月逃亡して韓國に渡り處々タリ廻はりし本年五月龍山に流れ來て本町三丁目笑月樓に酌婦に樓込み相も變らぬ娼妓を爲し居たるを此程前抱主賣樓の知人が發見して其旨通知したるより賣樓より龍山署に取押方を願出でたれはスエは取押へられて引渡されたり

防疫從事員賞與

今夏京城市内に於て虎列拉病猖獗を極め警視廳初め各警察官は防疫事務に殆んど疲食を忘れて盡瘁し爲めに二三の警官は其職に殉じたるが今回内務大臣は過般の功勞を認めこれが防疫事務に當りたる各員に對し十六日附を以て夫々賞與金の辭令交付したりと云ふ

感心なる小學生

本町三丁目井七番戸藥種商井ノ口平吉次男利德（一）本町一丁目菓子商大和軒事伸次德次郎長男弘（九）の二少年は十六日午後四時頃本町一丁目にて十錢銀貨一箇を拾得して南部署に届出でたれは桐原署長は其正直に甚く感激して兩人に賞與として與へたり

京城座雇人窃盜

南部護林洞統戸不詳孫順瑞長男孫千劉（九）は昨日京城座に雇はれ廣告方で太鼓打をなして同夜芝居を觀覽して午後十二時過ぎ歸宅に際し本町七丁目後藤某方の履物を窃取して逃走せんとする所を被害者に逮捕せられ身柄は南部署に突出さる

怪しき男の拘引

自稱福岡縣生れ力丸安雄（二）は目下一定の住所職業なく昨日午前六時頃水樂町三丁目十六番戸佐藤某所有の空家より窃かに出で來りたる擧動怪しき點多けれは南部署密偵同人を浮浪者として本署に留置し余罪取調中なり

二百轉車の新案

本町七丁目廿番戸鍋商岩見音藏（二）と本町八丁目九番戸鍋商大藤銀藏（三）は昨日午前九時半自轉車に乘り南大門通三丁目より字軍事服店前を通行の際新案に學等の若き輪は新に買ひに來るが若夫れ文學者に至つては何きも世間韓國人に論と主婦の部會には書店があるけれども書籍專賣の店はなく其筋の注意となりて事濟みたり

仁川たかの抱

仁川たかの抱の廢業は其受けたる教育程度甚だ低く從つて業等の讀書力は實に幼稚のものだ韓國學校の教科書に我が文部省に編纂したるものと韓國學部で編纂したものと二種あるが學部編纂の分には日韓書房が元販賣のことなるが故に地方にも從つてる而して地方にも從つてる而して際遭難者は眼を抜くして死土地に同れなる日本の何處なるよとの問を發せしにそ此樣に鮮なりて教へしかど現聲に合點をさるものゝ如くに視右所すに疑れにも滑稽なりしと云ふ

京城の讀書界（下）

△日韓書房主任の談

△新刊書類　新刊書類は其種類の如何や定價の高低に關らず案外賣行がよく新聞に廣告が出れば直ぐ買ひに來ると云ふ驚氣である是れを觀ても世人が如何に新智識の吸集に移めて居るかを窺るであろう殊に殖民地——新開地だけに韓鮮と謂ふ名詞の付く樣なものは喜しき傾向です本月十四日同店から發売したる韓國要覽の如き賣高は豫想外の成功を得る見込との話だ。

△一般の讀書眼　京城には當て東京生活をして來た者が比較的多いから東京趣味が普及して居るから東都で賣れる書籍は當地に於ても歡迎せられてある就中婦人の雜誌講讀者の多いのは反つて都會以上で現等が世の大勢を觀ふに客ならざるを推知するに難からずである。

△韓人の讀書　目下の處韓人は其受けたる教育程度甚だ低く從つて現等の讀書力は實に幼稚のものだ韓國學校の教科書に我が文部省に編纂したるものと韓國學部で編纂したものと二種あるが學部編纂の分には日韓書房が元販賣のことなるが故に地方にも從つてる而して

△韓人の讀書　目下の處韓人は其受けたる教育程度甚だ低く從つて現等の讀書力は實に幼稚のものだ韓國學校の教科書に我が文部省に編纂したるものと韓國學部で編纂したものと二種あるが學部編纂の分には日韓書房が元販賣

▲無料紹介欄▼

人事部

●求炊事女　年四十恰好のもの至急入用　本町一丁目官舎　桐原

●店員入用　十六七歳にて確實なる保證人有者　龍山京町古田米店（四八〇）

●下婢入用　十四五歳の下婢を求む給料は裁縫習字讀書諸禮生花等女子に必用なる教育を施す氏名在社（四七九）

●求職　年廿六簿記に經驗あるもの至急職に就きたし　氏名在社（四八二）

●ボーイ入用　十五歳以上廿歳以下敏名入用　南山町三　京城ホテル

●自轉車　英國製コースター付格安に賣渡したし　氏名在社（四七六）

●貸家　南山町二丁目二階建十疊と三疊と廻縁二階六疊二間廻縁井戸物置湯取付家賃面談　氏名在社（四七八）

●貸家　北部壽洞廿九統四に安價の貸家幾軒か數間あり御希望の方は同所の内尾に就き問合せあれ

物件部

●貸家本町通り目抜の場所にて貸家あり希望者は來談あれ氏名在社（四七〇）

●貸家　南山町二丁目二階建十疊と三疊と廻縁二階六疊二間廻縁井戸物置湯取付家賃面談　氏名在社（四七八）

●貸家　北部壽洞廿九統四に安價の貸家幾軒か數間あり御希望の方は同所の内尾に就き問合せあれ

廣告

各種洗濯石鹸　專門製造販賣　用途一●陸軍、鐵道、船舶、鑛道、鑛山、水道湯屋散髮、諸工業用　京城旭町二丁目（電話九七三番）

朝日石鹸製造所

折箱製造元　京城明治町一丁目五十番戸　漢城病院下横（入ル）　箱信事　鳥山商店

入院隨意　南山町二丁目　松岡醫院　電話六七五番

各科診療隨意　龍山新市街山下町　原醫院　入院……内科　小兒科　眼科

歐米新式　龍山榮町　高等裁縫　田口洋服店　電話三一二番

龍山若松町　島崎鐵工場　電話四四一番

陸軍諸官衙御用達　龍山老松町　建築土工請負業　磯口商店　電話一一九番

龍山元町三丁目　長尾醫院　院長　醫學得業士　長尾乙二

原料直輸入廉價調製各種木形新着　弊店の特色御注文品と否とに不拘材料は精選しタタイルは最新の粹を集め常に諸達の御滿足を得賢地御試用被下度候　●京龍間は御一報次第店員を派し地方は御一報次第見本帳御送附可仕候　深ゴム靴　特價　六圓五十錢　アミ上靴　五圓五十錢　淺ゴム靴　東京郵便局前　店主　磯部廣吉謹　京城本町一丁目　北村支店

廿五日迄開業祝として一割引　**かいき、まわた**　進物用眞綿、眞綿製防寒具類　京城本町一丁目（長谷川町へ通る）　京城代理店　栗永商店

京城明治町二丁目（佛國教會前）　辯護士　特許辯理士　岩田仙宗　電話三五四番

內國通運株式會社　貨物運送取扱　稅關貨物取扱　貨物引換證發行　危險擔保附運送　品代金付貨物運送

京城南大門驛前　電話一七九番　電話七〇八番　京城支店

仁川驛前　電話五一一番　仁川出張所

草梁驛前　釜山驛前　電話五一六番　草梁驛前　電話六三七番　釜山出張所

龍山驛構內　龍山出張所　電話二〇六番

綿わた綿ワタ　ふとん地色々、ふとん調進、太物類、洋反物類　卸問屋　京城明治町一丁目四ッ角　電話六一二番　唐川商店

東京袋足　本店東京　京城大和町一丁目（日の出橋際）　大和屋　藤井出張店　電話二百〇五番　正札付大安賣　厘毛引なし安心して買へ升

米東京海上運送保險株式會社　明治廿年七月創立●京城代辯店　本町四　山口呉服店内　電話九番　資本金一千萬圓●事務所　京城本町二の三　電話一〇六〇番

東京ランバーグ商會代理店　東京中外アスファルト株式會社代理店　東京千代田生命保險相互會社代理店

營業科目　印刷附屬品　印刷インキ　和洋書籍　防腐デシン　穀物食鹽　諸染料類　各學校御用品調達　諸官衙御用品調達　和洋紙類

委托販賣　藤田合名會社　東京博文館發行書籍特約店　東京金港堂發行書籍特約店　釜山臺鹽合資會社食鹽特約店

本社　京城電話一町二丁目（一〇三二番）　出張所　東京銀座南新橋電話一町三丁目（一六九二）

熱誠敏速ニ法律事務ヲ取扱フ　京城旭町一丁目六十七番戸　**辯護士**　岡田榮　（紹介ヲ要セス）（電話三九八番）

暖爐各種　廣告　煙突取付並ニ煙突掃除大勉强　電四七一番　電三二六四番　馬木勇吉　馬木支店

會席御料理御一人前　肴四品付酒二本　金六十錢　すき燒其の外應御好　京城竹園町一丁目　遊樂樓（元三遊樓跡）

神戸資生分院　◎花柳病專門附、痔一般（注射療法）●入院隨意●　京城相生町（南門湯横）　**京城花柳病院**　醫學得業士　淺田粹平

蒸乳牛消毒　**京城和平牧場**　電話一町目三三

代理店　**懷中要藥**

清心丹は旅行携帶藥として缺く可からざる良藥にして滿車滿船の急ひを快よくすること妙●高尚なる香氣を含み口熱臭を排し咽喉を潤し音聲を清朗ならしむる特効有を以て發聲家其他交際場裡の必携藥なり

清心丹は塩足之際口に含みて走るときは息切することなし

清心丹は風土變り水あたり等の恐れあるときは時々二三粒づゝ用ゆれば其患ひなからしむ

清心丹は過酒過食之停滯を解し消化を良好ならしむること妙●

清心丹は暑さ寒さあたりにて下痢腹には三十粒乃至四十粒を嚙み碎き三四回用ゆれば必ず奇効あり

清心丹は傳染病流行地に於ては常に二三粒嚙み碎用ひて大に驅防す

清心丹は人魚の商標と高木與兵衛の名號へ御注意之上御求めを乞ふ

清心丹は定價金一圓（箱入）五十錢（箱入）卅錢十五錢（紙包）廿錢十錢五錢（紙包）の八種あり

清心丹は製造本舗は東京市日本橋區元大坂町八番地にして取次は全國到る所の有名藥店にて販賣す　京城南大門通三丁目　電話（九百四番）　京城本町三丁目（電話四七八番）　新井藥房本店　新井藥房分店

●電話開通八百三十五番●　**唐津石炭**　直輸入商　並ニ平壤無煙炭あり　京城太平町一丁目九五　南大門高等女學校裏通り　近藤商店

特約販賣　**醬味噌製造元**　**漬物油**　京城本町五丁目　**大上商店**　（電話二一五一番）　自製物食料雜貨、ビール、米糧、塩辛、日本食鹽各種特約販賣御望に依り商品切手調進仕候　和洋酒、精酒、穀物麵類銘茶、鑵詰、乾物荒

時節柄敷物及夜具等新調仕り室内の設備も相整申候　御客樣に對しては叮嚀親切を旨とし調理の義は從來よりも一層勉强可仕候間倍舊の御引立奉願候　京城南山町四丁目　**原金旅館**　（電話長一〇七番）

處方調劑の依頼に應す　京城南大門通三丁目　藥劑師　新井藥房本店　小松禎三

根炭　堅炭　堅薪　松薪　松炭　石炭　京城旭町四丁目（電話一九八番）　眞下大吉商店

根炭　堅炭　堅薪　松炭　石炭　京城漢江通五丁目　直見商店　電話龍山二〇四番

待春日　**合のしゑ**

日本郵船　**滊船出帆**　仁川海岸通　電話三九番　郡回漕店

●釜山、長崎、門司、神戸行　山東丸　十一月廿日午後三時出

●大連、太沽行　高砂丸　十一月十八日正午時出

●大連、芝罘、秦皇島行　山東丸　十二月七日午前六時出

●大連行　酒田丸　十二月七日正午時出

●釜山出帆　元山、清津、浦鹽行　立神丸　十一月十七日午後時出

御乗船ノ際ハ稅關波止場ヨリ本船迄送迎船ニテ御乗船可申候　注意　ハ本船出帆ノ五十分前ニ解纜ノ事